

# ふるさと歴史アラカルト

## 岩国の城めぐり 蔵重城

岩国市由宇町の字蔵重（現・由宇町西三丁目）に蔵重（倉重）城跡という山城遺構があります。この城は由宇川下流の沿岸にある高さ約50mの小高い丘陵頂部に所在します。

江戸時代後期の『玖珂郡志』（広瀬喜運著）によると、蔵重城主は村田氏と記されています。今回は由宇の蔵重城と城主村田氏の歴史にスポットを当ててみます。

まず城主の村田氏について、大正8（1919）年に藤田葆が著した『蔵国藩制中雑話』を参考にして紹介します。村田氏の先祖は元々藤井氏と称し、鎌倉時代後期に初代藤井正季が安芸国豊田郡田万里（現・広島県竹原市田万里町）を地盤としました。

その後、6代正次は大内方として戦功を上げ、周防国伊陸・日積（現・柳井市）・由宇の領地を獲得、13代正之の時に周防国玖珂郡伊陸に地盤を移しました。14代義正の子である直季が別家を立て、母方の家を継いで村田直季と名乗り、蔵重城を居城としました。

慶長5（1600）年、吉川広家の周防国入封時に、村田直季は、いち早く加勢したとされ、抵抗した由宇地域の土豪である高木氏、難波氏、正覚寺を抑え込み、入封の手助けをしたとされています。広家は村田氏の屋敷を、横山に館ができる慶長7年まで拠点としました。この時の功績により、村田氏は由宇村の庄屋役を務めました。

蔵重城は、この村田屋敷の向かいにある丘陵頂部に立地しています。伊陸地区から由宇港へ抜け出るルート上にあるため、中世以来戦略上重要な場所に立地していたことがうかがえます。実際に城の遺構を歩いて確認してみると、後の時代に手の加えられた箇所もありましたが、北側曲輪群と北東に延びる段々状の曲輪群、南側の曲輪で構成されていることが確認できます。

このような城の構造から、尾根が延びる北東側（由宇港方面）の防御を強く意識した城郭であったと考えられます。

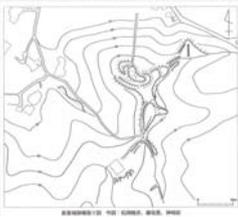
### 岩国徴古館

昭和20年に旧岩国藩主吉川家によって建てられ、その後岩国市に移管された市立の博物館  
住所：横山二丁目7-19 ☎(41)0452  
休館日：月曜（祝日の場合はその翌日）

※城館内にある土塁などで囲まれた平坦地のこと



蔵重（倉重）城跡の写真（全景）



山口県教育委員会「山口県中世城館遺跡総合調査報告書―周防国編―」（2018年）から引用

## 岩国市 人口・世帯

人口 132,440人【前月比 -16人】 男性 62,911人 女性 69,529人

世帯 65,653世帯【前月比 +72世帯】 ※外国人人口を含む(2020年9月1日現在)

### 交通事故発生件数

8月分事故件数 13件(140件) 死者数 0人(3人) 傷者数 15人(170人)

※高速道路発生分を除く。( )内は2020年累計

### 目の不自由な人へ

「広報いわくに」のカセットテープをお貸しします。  
お問い合わせは、広報戦略課 ☎(29)5016 FAX(21)3337